

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティバス運行助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市計画課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	仲田 政樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成29年11月に利用実態調査の実施により、把握した意見、要望及びコミュニティバス利用者の利便性について運行事業者と検討を行う。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	令和2年度でコミュニティバス運行事業者との協定が期間満了となるため、運行検討委員会による今後のコミュニティバスの運行形態を検討する。
②①に基づく取組み結果	運行ルートやバス停上屋に関し運行事業者と意見交換を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	交通不便地域の住民、高齢者を中心とした移動手段弱者	意図(対象をどうするのか)	交通手段の確保
②事務事業の概要	市内の交通不便地区における課題解消や公共施設等の使用促進を図るため、運行事業者への一部補助などにより公共交通網の充実を図るもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	週7日運行と高齢者の増加により利用客が増加し、更に高齢者の免許返納等や利便性向上による運行されていないルート要望が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	利用客数 129,033人(前年度比4.1%増)					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i コミュニティバス利用者数	90,089	123,932	129,033	人	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	48,056	47,000	金額(千円)	内容	47,340	
国支出金(千円)			47,000	補助金		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	5,000	5,000			5,000	
一般財源(千円)	43,056	42,000			42,340	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	運行ルート、バス停留所の改善要望や高齢者等の移動確保等、コミュニティバス利用者の利便性について検討する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い	
③上記評価の理由	高齢化社会の対応として、地域活動や生涯学習などの参加からコミュニティバスの運行は必要不可欠であるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	補助金	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金	47,140	47,140	当初	47,000	H29からの繰越	0
				H29→30繰越		0	現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
				令和元年度への繰越額(単位:千円)	0		

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市軸形成促進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	313質の高い既成市街地の整備	担当課室長	横山 吉治			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	昨年度実施した用地測量等を踏まえ、国の交付金を活用した事業を推進する。推進にあたっては、地権者の協力と、関係機関との調整が必要である。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	国の交付金を活用し、事業を推進する。なお、推進にあたっては、地権者の協力と、関係機関との調整が必要である。
②①に基づく取組み結果	地権者の協力を得て、国の交付金を活用し、事業用地を取得した。また、関係機関との調整を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	初富駅周辺地区整備事業	意図(対象をどうするのか)	初富駅へのアクセスルートと駅前広場の整備を行う。
②事務事業の概要	都市軸の一翼を担う初富駅周辺地区において、新京成線連続立体交差事業と併せて駅前広場等の整備の必要性から、地域住民や関係機関と協議を行いながら事業を推進していく。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線連続立体交差事業が平成29年度に1線供用開始され、令和元年度に完成が見込まれる状況、また駅前広場の整備については、高齢者人口の増加に伴い駅への送迎需要が高まり、安心して乗降できるよう整備を促進する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	国の交付金を活用し、事業用地を取得した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	用地取得面積(初富)	0	0	107	m <sup>2</sup>	業務取得
	ii	鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	-	-	56.3	%	市民意識調査
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	3,541	49,518	金額(千円)	内容	39,260		
国支出金(千円)	0	21,980	14,382	初富駅前広場整備事業用地購入費	2,365		
県支出金(千円)	0	0	28,985	物件補償	0		
市債その他(千円)	0	23,100			30,500		
一般財源(千円)	3,541	4,438			6,395		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	初富駅周辺地区は、主要地方道及び主要市道に囲まれ交通量が多く、また商業施設を含む多くの建物が密集している地区である。このことから事業の推進に伴っては、新たな用地の確保や建物移転等が伴うため、関係住民の理解と関係機関との調整が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	初富駅前広場等の整備は、新京成線連続立体交差事業の事業効果を高めるための関連事業として、また市の都市基盤としての整備、通学路の安全性を高める側面から推進する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	初富駅周辺地区整備事業における用地取得	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	事業用地を取得	49,260	49,524	当初	49,260	49,518	H29からの繰越	0
				H29→30繰越	0		現年分	49,518
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	264			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)				0		

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	311広域交流拠点の整備	担当課室長	横山 吉治			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成28年度の検討業務を受け、検討結果の情報共有を図るとともに、庁内の横断的な検討体制の構築も含め、引き続き土地利用に向けた検討業務に取り組む。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	引き続き土地利用の方策について、実現可能な範囲の内容について、将来のまちづくりに活用できるよう位置づけを行うため業務に取り組む。
②①に基づく取組み結果	土地利用の方策について、関係機関との協議の結果、公共利用目的を中心に実現可能な範囲を見定めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新鎌ヶ谷駅周辺地区	意図(対象をどうするのか)	地区の回遊性や利便性の向上を図る
②事務事業の概要	新鎌ヶ谷駅周辺地区が、魅力と活気にあふれる中心市街地として形成されるよう、土地利用の推進や通路の整備等を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	東京10号線延伸新線の事業化の検討中止や、新京成線連続立体交差事業の進捗に伴い、新鎌ヶ谷駅周辺地区における土地利用の形態に大きな変化が見込まれる時期であるため、上記事業への取組みが非常に重要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	新京成線連続立体交差事業に合わせた南北自由通路の一部区間の整備を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	新鎌ヶ谷駅乗降客数	99,003	101,206	102,916	人/日	業務取得
	ii	新鎌ヶ谷地区事業所数	245	253	249	件	業務取得
	iii	新鎌ヶ谷地区市街地整備促進事業進捗率	51	51	65	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	0	49,494	金額(千円)	内容		0	
国支出金(千円)			49,494	新鎌ヶ谷駅南北自由通路整備負担金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		49,494					

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	新鎌ヶ谷駅利用者の利便性や駅周辺の回遊性を高められるよう東京10号線延伸新線の活用方法について、千葉県企業局等の関係事業者と調整が引き続き必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	鎌ヶ谷市の顔となる同地区については、市街地形成の更なる促進が必要である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	通路整備負担金の支出	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	新鎌ヶ谷駅南北自由通路の一部を整備した。	60,107	60,107	当初	60,107	49,494	H29からの繰越
				H29⇒30繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
令和元年度への繰越額(単位:千円)							0